

病防第84号  
平成27年9月3日

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

病害虫発生予察注意報について（送付）

このことについて、平成27年度病害虫発生予察注意報第5号を公表しましたので、送付します。

## 注 意 報

平成27年度病害虫発生予察注意報第5号

農作物名 普通期・晩期水稻  
病害虫名 いもち病（穂いもち）

- 1 発生地域 県内全域
- 2 発生時期 出穂期以降
- 3 発生程度 多
- 4 注意報発表の根拠

- (1) 9月2日に実施した普通期水稻における調査で、44ほ場中23ほ場で葉いもちの発生を確認した。発生ほ場率は52.3%で8月中旬調査の35.0%に比べ発生ほ場が拡大してきている（図1）。また、ほ場内での発生状況は、平均発病株率が5.6%で、8月中旬調査(20ほ場)の16.2%に比べると低下しているが、平年より高い状態である（図2）。
- (2) 穂いもちの伝染源となる上位葉での発病を約5割のほ場で確認した。
- (3) 生育期間全般が日照不足で経過しており、稲体は軟弱で罹病しやすい状態となっている。
- (4) 福岡管区气象台が8月31日に発表した低温に関する異常天候早期警戒情報によれば、九州北部地方では9月5日から約1週間はかなり低い状態が続く見込みであり、いもち病の発生に好適である。

### 5 防除対策

- (1) 穂いもちは発生後の防除が困難である。葉いもちの発生状況を確認し、発生が多い場合は、晴れ間に速やかに防除を行う。
- (2) 葉いもちが上位葉に発生している場合や、出穂期以降に降雨が続く場合は、穂揃い期の7～10日後に追加防除を行う。なお、これから出穂する晩期水稻では、粉剤や液剤は、穂ばらみ期～穂揃い期に散布する。
- (3) QoI剤を含有する育苗箱剤を使用したほ場で発生が認められた場合は、他系統の薬剤を選び防除する。
- (4) 農薬を使用する際は、安全使用に努める。また、ミツバチや魚介類など周辺動植物及び環境へ影響がないよう、飛散防止を徹底するとともに、事前に周辺の住民や養蜂業者等へ薬剤散布の連絡を行うなど、危害防止に努める。

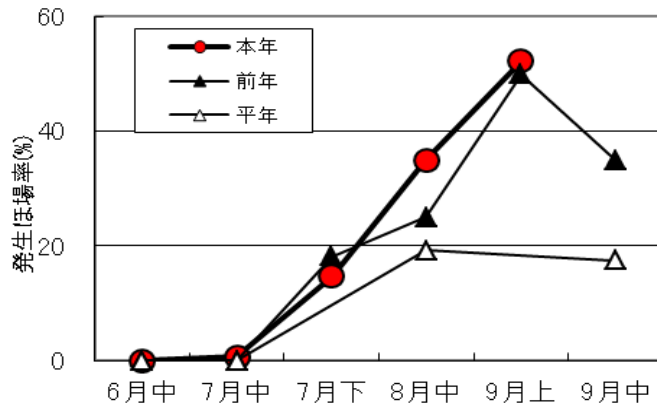


図1 発生ほ場率の推移

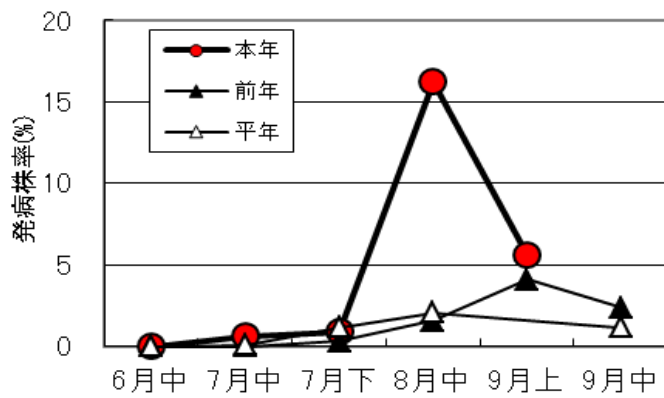


図2 葉いもち発生株率の推移



写真1 穂いもちの症状



写真2 葉いもちの症状

熊本県病害虫防除所  
 (熊本県農業研究センター 生産環境研究所  
 病害虫研究室 予察指導係)  
 担当：山口 TEL 096-248-6490